

特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング



# インターナショナル・コミュニティー・エンゲージメント・プログラム ICEP 2010 ラオス 実施報告書

2011/02/28



ラオス国内6つの町、18ヶ所で

約4,000名の人々に“初めてのクラシック音楽”を届けました

初めて見る楽器、初めて聴くカルテットの演奏に大興奮！  
ビエンチャン特別市にあるサティット小学校にて

Photo: Shinobu Suzuki

## もくじ

特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング .....	1
インターナショナル・コミュニティー・エンゲージメント・プログラム (ICEP) .....	1
ICEP2010 ラオス .....	2-3
参加アーティスト .....	4-5
活動概要 .....	6
スケジュール .....	7
各訪問先と活動の様子 .....	8-26

写真：鈴木忍

## 特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング

2002年9月、ヴァイオリニスト五嶋みどりによって設立された特定非営利活動法人（NPO）「ミュージック・シェアリング」は、前身である「みどり教育財団東京オフィス」（1992年設立）の活動を引継ぎ、文化・芸術の振興と子どもの健全育成を目的として活動しています。

ミュージック・シェアリングで実施する事業はすべて無料で提供され、活動の全てが個人、法人からのご寄付、財団の助成金、企業協力によって成り立っています。

## インターナショナル・コミュニティー・エンゲージメント・プログラム（ICEP）

「インターナショナル・コミュニティー・エンゲージメント・プログラム」（以下 ICEP）は、五嶋みどりが若手演奏家とカルテットを結成しアジア各国を訪れ、子どもたちの普段の生活の場にクラシック音楽の生演奏を届けながら国際交流を図る活動です。

これまでに、ベトナム（2006年）、カンボジア（2007年）、インドネシア（2008年）、モンゴル（2009年）で実施し、アジア訪問の翌年には日本で報告コンサートを開催しました。

2010年12月にはラオスを訪問し、2011年6月に東京と大阪で報告コンサートを行います。また、2011年12月にはバングラデシュでの活動を予定しています。



### ICEP 2つの目的

#### ◆未知の文化体験をアジアの子どもたちに

ICEPで訪問する国の子どもたちは、身近な場所でクラシック音楽の生演奏を聴く機会がほとんどありません。子どもたちのクリエイティビティ・相互理解・向上心を育む一助となるよう、視野を広げ明日への夢を抱くきっかけ作りを提供します。

#### ◆世界各国の若手演奏家とともに活動

五嶋みどりとカルテットを組むのは、世界からオーディションにより選ばれた若手演奏家3名。

オーディションでは録音審査以外に小論文やメールインタビューの課題を設け、総合的に評価しています。若手演奏家が ICEP での経験を通じて音楽のもたらす力について見つめ直し、音楽家としてできる社会貢献活動とはどのようなことなのか、実体験を通じて認識していきます。

### もうひとつの ICEP - 活動は日本でも

ICEP 訪問国での活動を日本国内に発信するため、アジアツアーの翌年、日本でカルテットを再結成しています。演奏とともに訪問国での活動について演奏家自身が語る「ICEP 報告コンサート～五嶋みどりと若き演奏家たち～」の実施に加えて、日本の小学校やジュニアオーケストラで行う「訪問プログラム」にも参加。日本の子どもたちに ICEP 訪問国の様子やそこで暮らす子どもたちの現状を伝え、「日本人として今自分にできることはなにか」を考えるきっかけを作ります。

## ICEP 2010 ラオス

### 東南アジアの最貧国といわれる国へ

5回目となる2010年のICEPでは、ラオスを訪問国に選びました。国連や各国政府機関などが共通で掲げた「ミレニアム開発目標」

(MDGs)に基づき、極度の貧困や飢餓の撲滅、普遍的初等教育の達成など8つの項目について様々な取り組みがなされた結果、東南アジア全体でみると貧困や初等教育の達成は改善に向かっていきます。

しかし、ラオスの教育や生活環境の水準は周辺国に比べて高いとは言えない状況です。

東南アジアの国（抜粋）	成人の識字率	初等教育純就学率/出席率	小学校に入学した生徒が最終学年まで残る率	改善された水源を利用する人の比率	1人あたりGNI国民総所得
	(%)	(%)	(%)	(%)	(米ドル)
	2003-2008	2003-2008	2003-2008	2006	2008
ラオス	73	84	62	60	750
ベトナム	90	93	92	92	890
カンボジア	76	89	55	65	600
インドネシア	91	85	80	80	2010
タイ	94	94	—	98	2840
ミャンマー	90	84	72	80	220

(出典：WHO 世界子供白書 2010)

### 教育事情

ラオスの学校制度は5・3・3制で、6歳から5年間の初等教育が義務教育です。

今回のICEPで訪問した学校は月曜日から金曜日の週5日間、授業は8時頃から16時頃までで、2時間半～3時間の長い昼休み（学校により異なる）がありました。特に郊外の学校では、昼休みは自宅へ戻って昼食を摂るほか、家事や農作業、子守りなどを手伝える時間になっています。学校の授業を終えて帰宅した後も家事手伝いを日常的に行っており、子どもが家庭の労働力としての一端を担っていました。

教師の数は絶対的に不足しており、教育を専門的に学んでいない教師の率は都市部から離れるほど高いといえます。農村部の学校を訪れた際には、教師が自分の子ども（乳幼児）の世話をしながら授業をする様子を見かけました。学校からの給料だけでは生計が成り立たず、教職員が学校終業後に農作業などの別の仕事を持つことは珍しくありません。

過去のICEPで訪れたカンボジアやインドネシアでは、教室不足を補うために1日2交代制で授業が行われていましたが、ラオスではそのようなシステムは見られず、1教室当たりの児童生徒数が多いように見受けられました。郊外では制服を着ていても履物が無い子どもや、教科書どころか鉛筆一本も無い状態で授業を受ける子どもをたくさん見かけ、教育に必要な最低限の部分の整備が遅れている様子でした。このほかにも、約50もの少数民族が存在するという特殊な事情により、自分が生まれ育った地域の言葉と先生が話す言葉がまるで違い、授業を理解できない子どもがいるという問題も抱えています。

このような教育環境の中、小学1年生から進級テストがあり、合格しないと次の学年へ上がることができないため、留年を繰り返して卒業までに時間がかかったり、通学をやめてしまったりする子どもも少なくないといえます。



## 音楽事情

ラオス国内にはクラシック音楽を演奏するオーケストラがなく、クラシック音楽を初めて聴いた、ヴァイオリンを初めて見たという声が多く聞かれました。

ラオスの伝統楽器の中には、二胡によく似た擦弦楽器がありますが、ヴァイオリンのように肩に乗せて演奏する楽器はないため、ヴァイオリンの形や音色、演奏中の動きなどの一つ一つに驚き、興味深く鑑賞している様子が窺えました。

## 約4,000名が参加した活動

ミュージック・シェアリングでは、ICEPの活動を通して、物質的な援助では補いきれない文化的支援による国際交流を図り、ラオス国内6つの市町村で20回の訪問コンサートを開いたほか、在ラオス日本国大使館との共催で一般向けの無料コンサートを1回開催し、約4,000名の人々に音楽を届けました。

## 外務省 日ラオス外交関係樹立55周年 主要行事

2010年は日本とラオスの外交関係樹立55周年であると同時にビエンチャン遷都450周年の節目の年にあたり、多くの団体による文化交流事業が実施されました。ICEPは日ラオス外交関係樹立55周年主要行事の一つになっています。

## 成果と今後の課題

ラオスはこれまで訪問したどの国よりもクラシック音楽の認知度が低く、約 4,000 名もの人々に新たな文化体験の機会を提供できたことは大きな成果と言えます。

活動に参加した若手演奏家にとっては、自らの演奏が子どもたちの心を動かすきっかけの一つになり、演奏活動を続けていく上での励みとなっています。

プログラム開始から5年が経ち、5か国で活動しましたが、訪れる国が違っても音楽に対する子どもたちの純粋な興味と反応は各国共通で、どの国に行っても未知の楽器や音楽に強い好奇心を持ちながら真剣な眼差しで見つめる子どもたちが待っていました。演奏を聴き、楽器を体験して感じた思いを友達や先生と語り合ったり、家族に伝えたりすることは一見なんでもないことのように思えますが、そのような日々の積み重ねが子どもたちの感受性を豊かにしていくものと考えます。

今後もこの活動を継続・発展させ、たくさん子どもたちを笑顔にしていきます。



## 参加アーティスト

五嶋みどり Midori (ヴァイオリン)



Photo: Timothy Greenfield-Sanders

1982年、ニューヨーク・フィルとの共演でデビュー。以来指揮者ではバーンスタイン、アバド、メータ、小澤、ラトル、ヤンソンス、器楽奏者ではスターン、ズッカーマン、ヨーヨー・マ、オーケストラではベルリン・フィル、ウィーン・フィル、パリ管、コンサートヘボウ管をはじめ多くの著名な音楽家との共演を重ね、室内楽にも力を注ぎ、幅広い演奏活動を続けている。

年間70回以上の演奏活動に加えて、コミュニティー・エンゲージメント活動（地域密着型の社会貢献活動）にも積極的に取り組み、1992年ニューヨークに非営利団体「Midori&Friends」を、同時に東京に「みどり教育財団東京支部」を設立。2002年からは、NPO法人「ミュージック・シェアリング」として「みどり教育財団」の活動を引き継ぎ、2006年からはアジア圏でもICEP（インターナショナル・コミュニティー・エンゲージメント・プログラム）を展開している。その他にも、米国ではPiP（パートナーズ・イン・パフォーマンス）、ORP（オーケストラ・レジデンシー・プログラム）、URP（ユニバーシティ・レジデンシー・プログラム）など、目的に合わせてさまざまなプロジェクトを企画、団体を組織するなど、常にコミュニティーを意識したみどりの音楽活動は、多くの音楽家に影響を与え、社会的に支持を得ている。

2004年、南カリフォルニア大学（USC）ソーントン音楽学校の「ハイフェッツ・チェアー」に就任、2007年より弦楽学部主任教授を務める。その他にも世界各地でマスタークラスを開くなど、後進の指導にも余念がない。

使用楽器はガルネリ・デル・ジェス「エクス・フーベルマン」（1734年作）で、社団法人林原共済会より終身貸与されている。CDはソニー・クラシカルよりリリース。趣味は読書、観劇。

2007年9月より国連平和大使に就任。

公式サイト <http://www.gotomidori.com/>

ティエンシン・シンディー・ウー Tien-Hsin Cindy Wu (ヴァイオリン)



台湾出身。アジアのみならずアメリカ・ヨーロッパにて幅広く活躍し、ロシア国立交響楽団、国立台湾交響楽団との共演ではソリストを務めた。ゲイリー・グラフマン、ゲイリー・ホフマン、キム・カシュカシャン、アルバン・ベルク四重奏団、ガールネリ弦楽四重奏団、東京クワルテットらと、リンカーンセンター/アリス・タリー・ホールなどの有名なホールにて共演している。現在、南カリフォルニア大学ソーントン音楽学校非常勤講師。

ヘレナ・ベイリー Helena Baillie (ヴィオラ)



イギリス出身。ヴァイオリンとヴィオラを専攻してカーティス音楽院を卒業。2008年ニューヨークでのリサイタルデビューが絶賛され、その後ピンカス・ブーカマンやボザール・トリオらと共演。カーネギーホールでのシュナイダーシリーズにも出演し、アメリカやヨーロッパ各地でリサイタルを行う。2003年ライオネル・ターティス国際ヴィオラ・コンクール入賞、2004年ミュンヘン国際コンクール受賞、2010年ニューヨークのバードカレッジ音楽学校から音楽奨学生として認められるなど、多数の受賞歴がある。

ピーター・マイヤーズ Peter Myers (チェロ)



アメリカ出身。コルバーン音楽学院を経て、南カリフォルニア大学にて修士号を取得。マルボロ音楽祭に参加しリチャード・グード、アーノルド・スタインハート、マイケル・ツリーといった演奏家らと共演。2009年ハンブルク国際室内楽コンクールにおいて優勝したサワロ・ピアノトリオのチェリストでもある。作曲家としても活躍しており、ヴィオラ奏者キム・カシュカシャンのヴィオラとパーカッションのための委嘱作品を手がける。

ミュージック・シェアリングのインターナショナル・コミュニティ・エンゲージメント・プログラム (ICEP) には 2009 年のモンゴルに続き 2 回目の参加。

鈴木 忍 Shinobu Suzuki (写真家)

静岡県出身。新潟大学人文学部卒業。'96年度、日本写真芸術専門学校写真芸術科卒業。2000年第2回三木淳賞受賞。'01年新宿ニコンサロンにて個展『その優しい去勢のために』開催。スタジオ勤務を経て蔵田好之氏に師事。独立後、各社広告、CLASSY, mina, samurai, Hair-style-magazine 等他多数雑誌にて活動中。

ICEP2010 ラオス同行カメラマンの審査に合格し活動に参加。

## 活動概要

訪問国 ラオス人民民主共和国  
面積 約24万km<sup>2</sup>(日本の本州の面積に相当)  
人口 約570万人(北海道の人口と同等)  
首都ビエンチャンには約74万人が暮らす。  
多民族国家で低地ラオ族(タイ語族)が60%、  
その他は約50の少数民族に分かれる。

訪問都市 ビエンチャン特別市  
ルアンパバーン市  
ルアンパバーン郡ティンソム村  
ルアンパバーン郡ムアンカイ村  
ターパバート郡ウドムサイ村  
ボリカン郡パームアン村



活動期間 2010年12月16～30日

公演回数 計21回(18ヶ所)  
訪問コンサート 20回(17ヶ所)  
一般向け無料コンサート 1回(1ヶ所)

参加者総数 3,890名

主催 特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング  
共催 在ラオス日本国大使館  
協賛 キッコーマン株式会社、花王株式会社、三井石油開発株式会社、  
国際石油開発帝石株式会社、全日本空輸株式会社、社団法人林原共済会  
助成 独立行政法人国際交流基金  
協力 外務省、在ラオスアメリカ大使館、国連開発計画(UNDP)ラオス事務所  
特定非営利活動法人日本口唇口蓋裂協会、特定非営利活動法人ラオスのこども  
特定非営利活動法人難民を助ける会、ラオス国営航空、Happy Smile Tour



## スケジュール

日	都市	行事	会場・場所	
12/16～19		日本国内にてリハーサル		
12/20	月	ビエンチャン市	ビエンチャン着	
			レクチャー受講 ラオス伝統音楽 ラオス教育事情	
12/21	火	ビエンチャン市	訪問コンサート1	国立大学附属サティット小学校
			訪問コンサート2	セタティラート病院
			ルアンパバーンへ移動	
12/22	水	ルアンパバーン市	訪問コンサート3	孤児院学校
			訪問コンサート4	ルアンパバーン 子ども文化センター
12/23	木	ティンソム村	訪問コンサート5	ティンソム村小学校
		ムアンカイ村	訪問コンサート6	ムアンカイ小学校
			児童宅訪問	
12/24	金	ルアンパバーン市	訪問コンサート7	少数民族学校
			訪問コンサート8	SOS スクール ルアンパバーン校
			ビエンチャンへ移動	
12/25	土	ビエンチャン市	訪問コンサート9	SOS スクール ビエンチャン校
			訪問コンサート10	国立リハビリセンター(NRC)内 視聴覚障害者学校
			施設見学	NRC 内クラスター爆弾関係展示施設 (COPE)
12/26	日	ビエンチャン市	訪問コンサート11	子ども教育開発センター(CEC)
			訪問コンサート12	NPO 法人ラオスのこども 図書館
			一般向け無料コンサート	武道センター
12/27	月	ウドムサイ村	訪問コンサート13	ターパパート中学高校
		パームアン村	訪問コンサート14	パーシン小学校
12/28	火	ビエンチャン市	訪問コンサート15	トンカンカム小学校
			訪問コンサート16&交流会	国立音楽舞踏学校
12/29	水	ビエンチャン市	訪問コンサート17	ビエンチャン・ユース・センター
			ビエンチャン発	
12/30	木		日本帰国	

## 各訪問先と活動の様子

### 訪問コンサート1 国立大学附属サティット小学校（ビエンチャン市）

#### ◆学校情報

在校生数 600名  
在校生年齢 6～10歳（1～5年生）  
教員数 18名  
教室数 旧校舎 10教室【1990年建設】  
新校舎 5教室【2009年増設、各学年1教室】  
その他 今年から1年生の英語教育を開始した（以前は4年生以降）。



正規の教育指導プランには入っていないが音楽の授業もあり、歌や踊りを教師が自主的に教えている。

#### ◆コンサート内容

日時 12月21日（火）9：00～10：50

会場 教室

参加者数 約600名（3回実施）

実施内容 ICEPカルテット自己紹介

楽器の説明

ドヴォルザーク／糸杉 B.152より 第12曲

ハイドゥン／弦楽四重奏曲 ト長調 Op.76 No.1より 第1楽章

楽器体験

石井 欽（ピーター・マイヤーズ編曲）／「海四章」より 蟬

モーツァルト／ディベルティメント 二長調 K136より 第1楽章

Q & A



当初、一部の学年を対象とし、1回のコンサートを実施する予定だったが、当日学校へ到着すると、約600名の児童全員が楽しみに待っていた。このため、全校児童を3つのグループに分け、合計3回のコンサートを実施した。

## 訪問コンサート2 国立セタティラート病院（ビエンチャン市）

### ◆施設情報

入院患者数	116名（12月21日現在） このうち子どもの入院患者は20名
外来通院児	約50名
病気の種類	デング熱、肺炎 白血病（比較的軽い症状の子ども）等
その他	日本の無償資金協力により建設され、2011年2月に創立10周年を迎える。



### ◆コンサート内容

日時	12月21日 11:30~12:30
会場	小児病室前の多目的スペース
参加者数	約120名
実施内容	ICEPカルテット自己紹介 ドヴォルザーク／糸杉 B.152より 第12曲 楽器紹介 ハイドン／弦楽四重奏曲 ト長調 Op.76 No.1より 第1楽章 石井勲（ピーター・マイヤーズ編曲）／「海四章」より 蝉 モーツァルト／ディベルティメント 二長調 K136より 第1楽章



演奏会場を小児科病室前にしたため、入院児たちは親の付き添いを受け、車椅子や移動用の点滴装置を使いながら、演奏を聴くことができた。小児入院患者だけでなく、大人の入院患者や付き添いの家族、医療関係者など、参加者は多数となった。

JICA シニア海外ボランティアの看護師の方より「ラオス人は、伝統楽器の演奏でさえ生で聴く機会が減って、CDに取って代わっているところ、西洋楽器の演奏を聴く機会は全くの初めてで良かった、楽しかったとの患者の感想を聞いた。また、ラオス人看護師たちが患者に良い経験をしてもらえたことを感謝していると言っていた」とのコメントをいただいた。

## 訪問コンサート3 ルアンパバーン孤児院学校 (ルアンパバーン市)

### ◆学校情報

在校生数 553名

在校生年齢 8～18歳

教員 37名

設立 1985年

その他 ルアンパバーン県内12地区の孤児または片親家庭の児童生徒が在学。入学時の年齢がまちまちなため、同じ学年でも年齢に幅がある。

授業に必要な教科書、ノート、筆記用具が完全に揃っている児童生徒はごく僅かだった。



### ◆コンサート内容

日時 12月22日(水) 10:00～11:00

会場 会議室

参加者数 約500名(2回実施)

a. 小学2～5年、中学1～3年 計250人

b. 高校1～4年 計250人

実施内容 ICEPカルテット自己紹介

ドヴォルザーク/糸杉 B.152より 第12曲

楽器の説明と体験

ハイドン/弦楽四重奏曲 ト長調 Op.76 No.1より 第1楽章

a. シューマン/弦楽四重奏曲第3番イ長調Op.41 No.3より 第2楽章

b. 石井歓(ピーター・マイヤーズ編曲)/「海四章」より 蝉

モーツァルト/ディベルティメント 二長調 K136より 第1楽章

Q & A

楽器の説明の際は、演奏家の何気ない言葉でも笑い声上がり盛り上がったが、演奏中は対照的に真剣な眼差しで聴き入っていた。

Q&Aでは「アメリカとラオスはどれくらい離れているのか」、「国籍が異なる4人がどのように出会って、一緒に演奏することになったのか」といった質問が出た。

演奏家から「弦楽器の弓はどんな動物の尻尾の毛を使っていると思うか?」との問いかけに、全員が「ゾウ」と即答し、お国柄と微笑ましく思った。



## 訪問コンサート4 ルアンパバーン子ども文化センター (ルアンパバーン市)

### ◆施設情報

利用者数 50～60名／日（学校休暇中100名／日）  
職員数 5名  
設立 1998年1月  
その他

日本の児童館と同種の施設で、小額の入会金を支払うと放課後や休日に工芸や伝統音楽、英語など10種類を習うことができる。

ルアンパバーン県は、ラオス国内で唯一すべての地区に同種の施設があるが、利用者のほとんどはセンターに近い市内中心部に住む子どもたちである。農村地区に住む子どもたちは、センターまで遠距離であることや家で農作業の手伝いをしなくてはならないため、利用することが困難であるという。



### ◆コンサート内容

日時 12月22日（水）16:30～18:00

会場 多目的ホール

参加者数 約70名

実施内容 バーシーの儀式\*

ICEPカルテット自己紹介

ドヴォルザーク／糸杉 B.152より 第12曲

楽器の説明

ハイドン／弦楽四重奏曲ト長調 Op.76 No.1より 第1楽章

楽器体験

石井欽（ピーター・マイヤーズ編曲）／「海四章」より 蝉

モーツァルト／ディベルティメント 二長調 K136より 第1楽章

Q & A

子どもたちによるパフォーマンス（伝統楽器ソロ、民族ダンス、民族楽器演奏）



同センターに自発的に通っている子どもたちであるため、音楽を座って静かに聴くという初めての経験にも順応し楽しんでいた。

\*バーシーの儀式とは幸福と繁栄を祈願するもので、お供えを中心に祝う側と祝われる側が車座になって座り、僧侶（または祈祷師）の読経を聴いた後、僧侶から木綿の糸を、手首に結んでもらうもの。結び付けられた糸には、相手の幸せへの祈りがこめられている。



## 訪問コンサート5 ティンソム村小学校 (ルアンパバーン郡ティンソム村)

### ◆学校情報

在校生数 81名(男子34名、女子47名)  
教職員数 6名  
その他 モン族、カム族、ラオ族出身の児童が在学。  
音楽の授業は週に2時間実施しており、歌唱、  
太鼓や椰子殻などをリサイクルして自分たち  
で作った楽器の演奏などを行っている。



他の訪問校と比べ、教室はきちんと整備され、壁や教室に教材などを掲示している様子や身近なものを工夫して楽器を作った音楽教育などの様子からも、学校側の教育に対する熱心さが窺い知れた。

### ◆コンサート内容

日時 12月23日(木) 10:00~11:00

会場 地区集会所

参加者数 約90名

実施内容 ICEPカルテット自己紹介

ドヴォルザーク/糸杉 B.152より 第12曲

楽器、楽曲の説明

ハイドン/弦楽四重奏曲ト長調 Op.76 No.1より 第1楽章

楽器体験

石井敏(ピーター・マイヤーズ編曲)/「海四章」より 蝉

モーツァルト/ディベルティメント 二長調 K136より 第1楽章

Q & A

子どもたちによるパフォーマンス(歌)



当初、校内で実施する予定だったが、当日校庭で地域のサッカー大会が開かれることになり、急遽、学校裏手の地区集会所で実施することになった。コンサートが始まると近隣住民の老若男女が自然と集まり、学校の子どもたちを見守りながら共に演奏を楽しんでいた。

子どもたちが歌った曲は、ルアンパバーンの美しさを称えた内容で、伴奏に使った太鼓は、プラスチック製バケツを逆さにして手で打ち鳴らしていたものだった。教材に恵まれているようには見えないが、全員で心から楽しんで歌う子どもたちの姿は、音楽教育の基本だと感じた。

## 訪問コンサート6 ムアンカイ郡小学校（ルアンパバーン郡ムアンカイ村）

### ◆学校情報

在校生数 117名（1～5年生、男子71名、女子46名）  
併設幼稚園 15名（3クラス、男子7名、女子8名）  
教員数 11名  
その他 ラオ族102名、モン族15名の児童が在学。  
在校生の家庭のほとんどが農業で生計を立てている。



### ◆コンサート内容

日時 12月23日（木）14：00～15：00

会場 教室

参加者数 約130名

実施内容 ICEPカルテット自己紹介

ドヴォルザーク／糸杉 B.152より 第12曲

楽器、楽曲の説明

ハイドン／弦楽四重奏曲ト長調 Op.76 No.1より 第1楽章

楽器体験

石井欽（ピーター・マイヤーズ編曲）／「海四章」より 蟬

モーツァルト／ディベルティメント 二長調 K136より 第1楽章

Q & A

子どもたちは狭い教室に詰め合うようにして座っていたが、気にする様子も無く、終始楽しそうにコンサートに参加していた。

コンサート終了後、在校生（ラオ族の1年生）の自宅に伺い、日常生活や学校生活のことを伺うなど、交流を持つ。



## 訪問コンサート7 少数民族学校 (ルアンパバーン市)

### ◆学校情報

在校生数 613名(男子431名、女子182名)  
在校生年齢 12～18歳  
教員数 28名  
設立 1993年(1980～1992年は教師養成学校)  
その他 音楽選任教師1名が在籍しており、毎週伝統的な音楽や踊りを学ぶ授業がある。



県内の貧しい農村出身の子どもたちが在学し、全員が寄宿舎で暮らしている。大多数はカム族(中地ラオ族)出身者で、その他にラオ族やモン族の子どもたちが少数ずつ在籍。多くの少数民族がいる中、カム族は特に貧しいと言われている。

子どもたちは、村→地区→郡→県の順番で選抜を繰り返して入学するが、学校の長期休暇後、毎回7、8人の退学者が出る。これは、帰村した際に結婚させられたり、(家の手伝いをさせるため等の理由で)親が子どもと一緒にいることを強く望んだりして学校に戻れないからだという。現状では学校側から家庭への連絡方法が無く、対処法が無い。

### ◆コンサート内容

日時 12月24日(金) 10:00～11:00

会場 食堂

参加者数 約500名

実施内容 ICEPカルテット自己紹介

ドヴォルザーク/糸杉 B.152より 第12曲

楽器、楽曲の説明

ハイドン/弦楽四重奏曲ト長調 Op.76 No.1より 第1楽章

楽器体験

石井欽(ピーター・マイヤーズ編曲)/「海四章」より 蝉

モーツァルト/ディベルティメント 二長調 K136より 第1楽章

Q & A



中学生を対象に実施する予定だったが、到着後、全員に聴かせたいとのリクエストを受けて全生徒の参加となった。一部の生徒は給食作りの係りだったが、食堂の直ぐ横が煮炊き用のかまどで、ドラム缶を使った炊飯などの給食準備の傍ら、演奏に耳を傾けていた。

## 訪問コンサート8 SOS スクール ルアンパバーン校（ルアンパバーン市）

### ◆学校情報

在校生数 441名（幼75名、小150名、中152名、高64名、）  
在校生年齢 4～18歳  
教職員数 48名  
設立 1985年  
その他 世界的な児童福祉組織 SOS Children Village が支援する施設で、全世界に 205ヶ所、ラオスには4ヶ所ある。敷地内の寄宿舎で暮らす孤児と、各家庭から通学する生徒と一緒に学んでいる。  
現在は114名が寄宿舎で暮らしている。



### ◆コンサート内容

日時 12月24日（金）14：00～15：00

会場 校内ロビー

参加者数 約120名

実施内容 ICEPカルテット自己紹介

ドヴォルザーク／糸杉 B.152より 第12曲

楽器、楽曲の説明

ハイドン／弦楽四重奏曲ト長調 Op.76 No.1より 第1楽章

楽器体験

石井欽（ピーター・マイヤーズ編曲）／「海四章」より 蝉

モーツァルト／ディベルティメント 二長調 K136より 第1楽章

Q & A

子どもたちによるパフォーマンス（伝統舞踊）



「ヴァイオリンはどこで作られるのか?」、「楽器にf字孔があるのはなぜか」といった質問を受けた。

子どもたちによるパフォーマンスでは、3グループの伝統舞踏があり、中でもラーマヤナ物語のハヌマーンというサルを題材にしたソロの踊りは非常にレベルが高く素晴らしいものだった。



## 訪問コンサート9 SOS スクール ビエンチャン校 (ビエンチャン市)

### ◆学校情報

在校生数 450名(幼、小、中、高)  
在校生年齢 4～18歳  
教員数 24名  
その他 SOS スクール ルアンパバーン校の姉妹校。  
敷地内にある寄宿舎には、2～18歳の孤児113名が養護職員と共に暮らしている。  
ビエンチャン校では週に一度、3年生以上に音楽の授業がある。



### ◆コンサート内容

日時 12月25日(土) 9:00～10:00  
会場 多目的スペース  
参加者数 約150名  
実施内容 ICEPカルテット自己紹介  
ドヴォルザーク/糸杉 B.152より 第12曲  
楽器、楽曲の説明  
ハイドン/弦楽四重奏曲ト長調 Op.76 No.1より 第1楽章  
楽器体験  
石井欽(ピーター・マイヤーズ編曲)/「海四章」より 蟬  
モーツァルト/ディベルティメント 二長調 K136より 第1楽章  
Q & A



コンサート当日は休日だったため、主に寄宿舎に住む4～18歳の子どもたちが参加した。生徒によるパフォーマンス(伝統舞踊)が予定されていたが、コンサート中、この地域一体が停電となり、踊りに使う音楽をかけることができず、残念ながらキャンセルとなった。



## 訪問コンサート10 国立リハビリテーションセンター内 視聴覚障害児学校（ビエンチャン市）

### ◆学校情報

在校生数 91名（視覚障害21名、聴覚障害70名）  
在校生年齢 8～14歳  
教員数 18名  
その他 保健省（Ministry of Public Health）管轄の学校。児童生徒の全員が寄宿生。  
目に障害を持つ生徒はこの学校以外に外部の普通校にも通う制度になっている。  
入学年齢が14歳で卒業年齢が23歳というケースもある。  
エレクトーン、ドラム、歌、ギターなどの指導を時々実施している。



### ◆コンサート内容

日時 12月25日（土）14：00～15：00

会場 センター内会議室

参加者数 約50名

実施内容 ICEPカルテット自己紹介

ドヴォルザーク／糸杉 B.152より 第12曲

楽器、楽曲の説明

ベートーヴェン／弦楽四重奏曲第5番イ長調Op.18-5より 第1楽章

楽器体験

石井欽（ピーター・マイヤーズ編曲）／「海四章」より 蝉

モーツァルト／ディベルティメント 二長調 K136より 第1楽章

Q & A

パフォーマンス（生徒と先生による合唱）



視覚障害児には楽器の形を、聴覚障害児には楽器の響きを充分体感できるよう、楽器体験の時間を長めに設定したほか、演奏家が4ヶ所に分かれ、生徒たちのすぐそばで演奏し、より身近に音楽を楽しむ時間を作った。

生徒たちは初めて体験するコンサートに非常に緊張していたものの、演奏中はよく集中し、楽器体験後は大分リラックスして楽しんでいた様子だった。

## 国立リハビリテーションセンター内 COPE 見学（ビエンチャン市）

### ◆施設情報

施設名 Cooperative Orthotic and Prosthetic Enterprise (COPE)

設立 1997年（英国をベースとする国際NGOの POWER Internationalによる）

視聴覚障害児学校でのコンサート終了後、施設内にあるCOPEを見学。

この施設にはクラスター爆弾に関する展示物とそれに関連したアート作品が展示されている。

1960～70年代のインドシナ戦争で200万トン以上の爆弾が投下されたラオス国内には多数のクラスター爆弾を含む不発弾が残る。現在でも不発弾による事故や被害（被害者の多くは子どもたち）が頻発し、簡単には解決されない現状を知った。



## 訪問コンサート11 子ども教育開発センター（ビエンチャン市）

### ◆施設情報

利用者数 70～100名／日

利用年齢層 6～17歳

職員数 専任3名

この他に市職員が講師として3名  
韓国人スタッフ1名

設立 2005年3月

その他

日本 NGO 連携無償資金協力により、特定非営利活動法人ラオスのこどもと ODA の連携で建設された施設。教員の再教育施設も兼ねており、水～金曜日は教員のトレーニングに使用している。子どもたちは土・日曜日にセンターに通い、様々なプログラムを学ぶ。



### ◆コンサート内容

日時 12月26日（日）9：00～10：30

会場 会議室

参加者数 約80名

実施内容 ICEPカルテット自己紹介

ドヴォルザーク／糸杉 B.152より 第12曲

楽器、楽曲の説明

ハイドン／弦楽四重奏曲ト長調Op.76 No.1より 第1楽章

楽器体験

ベートーヴェン／弦楽四重奏曲第5番イ長調Op.18-5より 第1楽章

モーツァルト／ディベルティメント 二長調 K136より 第1楽章

Q & A

子どもたちによるパフォーマンス（古典叙述詩「サンシンサイ\*」上演）



子どもたちによるパフォーマンスでは、韻を踏んだ詩の朗読と踊りを取り入れた「サンシンサイ」という演劇が披露された。数分に渡る長い文の朗読であるにもかかわらず、全て暗唱していた上、大変情緒たっぷりの演技で、普段の彼らの一生懸命な練習の様子や自国の伝統ある文化への誇り、指導者の熱意が伺える見事な上演だった。

\*サンシンサイ…仏教文学として17世紀に書かれた英雄伝

## 訪問コンサート12 特定非営利活動法人ラオスのこども 図書館 (ビエンチャン市)

### ◆施設情報

利用者数 30～40名／日  
利用年齢層 小・中・高校生、青少年  
開館日 月～土曜日  
その他 特定非営利活動法人ラオスのこどもは日本とラオスで活動する国際協力 NGO である。



### ◆コンサート内容

日時 12月26日(日) 11:00～12:00

会場 図書館 閲覧スペース

参加者数 約50名

実施内容 ICEPカルテット自己紹介

ドヴォルザーク／糸杉 B.152より 第12曲

楽器、楽曲の説明

ハイドン／弦楽四重奏曲ト長調 Op.76 No.1より 第1楽章

楽器体験

ベートーヴェン／弦楽四重奏曲第5番イ長調Op.18-5より 第1楽章

モーツァルト／ディベルティメント 二長調 K136より 第1楽章

Q & A

子どもたちによるパフォーマンス (劇「大きなカブ」上演、詩の斉唱)



Q&A では子どもたちが積極的に発言し、「楽器に張ってある4本の弦の違いは何か」、「4人で演奏する際、なぜヴァイオリン奏者だけが2人なのか」、「楽器は何年に作られたものか」などの鋭い質問が出た。

図書館を運営するラオスのこどもの日本人駐在員の方からは、「子どもたちだけでなくラオス人スタッフもコンサートに心を揺さぶられ、音楽の楽しさに開眼していた」とのコメントをいただいた。



## 日本ラオス外交関係樹立 55 周年記念 コンサート（ビエンチャン市）

### ◆コンサート内容

日 時 12月26日（日）19：00～21：00

会 場 武道センター

主 催 者 在ラオス日本国大使館、特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング

出 演 ICEP カルテット、国立音楽舞踏学校教師・生徒

プログラム 【在ラオス日本国大使館 横田大使よりご挨拶】

#### 【ICEP カルテット】

- ・ベートーヴェン／弦楽四重奏曲第5番イ長調 Op.18-5 より 第1、3楽章
- ・シューマン／弦楽四重奏曲第3番イ長調 Op.41 No.3 より 1、4楽章

#### 【国立音楽舞踏学校】

- ・ラオス伝統楽器の演奏
- ・ラオス伝統舞踊

観 客 数 約 600 名





## 訪問コンサート13 ターパバート中学高校（ボリカムサイ県ターパバート郡ウドムサイ村）

### ◆学校情報

在校生数 925名（中学343名、高校582名）  
在校生年齢 11～19歳  
教員数 32名  
その他 ビエンチャン市内中心から車で約2時間の農村地域の学校。スポーツ・学芸の色々な分野で生徒が優秀な成績を収めている。図書館を敷地内に建設するなど教育に熱心。



### ◆コンサート内容

日時 12月27日（月）11：00～12：00

会場 教室

参加者数 350名（中1～4）

実施内容 ICEPカルテット自己紹介

ドヴォルザーク／糸杉B.152より第12曲

楽器、楽曲の説明

ハイドン／弦楽四重奏曲ト長調Op.76 No.1より 第1楽章

楽器体験

ベートーヴェン／弦楽四重奏曲第5番イ長調Op.18-5より 第1楽章

モーツァルト／ディベルティメント 二長調 K136より 第1楽章

Q & A

子どもたちによるパフォーマンス（伝統舞踊、伝統楽器とエレキギターのバンド演奏）



コンサートは中学生が対象だったが、会場に入りきれない高校生たちも教室の外から熱心に見学していた。生徒によるパフォーマンスの際、演奏に使っていたエレキギターは、本体が白木の手作り品で、ドラムセットも部品を寄せ集めて自分たちで工夫したものだった。エレキギターなどの西洋楽器にラオスの伝統楽器が加わる楽器編成で、独創的で楽しい演奏を披露してくれた。

## 訪問コンサート14 パーシン小学校（ボリカムサイ県ボリカン郡パームアン村）

### ◆学校情報

在校生数 150名

在校生年齢 6～13歳

教員数 10名

その他 パームアン村パーシン地区のモン族の子どもたちが通う。敷地内には幼稚園、中学校、高校もある。学区内には305世帯、2,383名が暮らす。通常の在学年齢は、6～11歳（1～5年生）だが、8歳で入学する子どもも多い。子どもたちが身につけていた伝統的な民族衣装は、色彩や装飾がとても豊かで美しいものだった。



### ◆コンサート内容

日時 12月27日（月）15：00～16：00

会場 パームアン村公民館

参加者数 約200名

実施内容 ICEPカルテット自己紹介

ドヴォルザーク／糸杉 B.152より 第12曲

楽器、楽曲の説明

ハイドン／弦楽四重奏曲 Op.76 No.1 ト長調より 第1楽章

楽器体験

ベートーヴェン／弦楽四重奏曲第5番イ長調Op.18-5より 第1楽章

モーツァルト／ディベルティメント 二長調 K136より 第1楽章

Q & A

子どもたちによるパフォーマンス（モン族伝統舞踊、伝統歌唱、児童挨拶）

モン族伝統モチーフの布の贈呈



子どもたちが披露したモン族の歌や踊りは非常にシンプルで素朴なもので、このような芸能がモン族にとって特別なものではなく、昔から人々の生活に密着したものであったことが窺えた。

校長先生からは「数ある学校の中からこのように遠くにある我が校を選んで頂き、子どもたちに色々な刺激を与えて、感性を豊かにする機会を与えて頂けることを、とてもうれしく思っています。」とのコメントをいただいた。

コンサート終了後に、同校在校生の自宅のある集落を訪問した。歓迎を意味するラオスのお酒の乾杯儀式を経験し、普段の生活の様子などを伺った。

## 訪問コンサート15 トンカンカム小学校（ビエンチャン市）

### ◆学校情報

在校生数 90名（男子48名、女子42名）

在校生年齢 6～10歳（小学1～5年生）

教員数 5名

その他 ラオス労働社会福祉省から紹介された学校。

1クラス16～20名で各学年1クラス。

近年、政府の土地に不法に住んでいた世帯が政府による強制措置を受け、児童数が急激に減少している。年間70,000キープ（約700円）の学費（登録料）が必要だが、半数近くの家が満足に支払えない。

在校生のうち15名ほどは、市内中心部にある児童養護施設「プアン・ミット」（ストリートチルドレン支援センター）から通学。



### ◆コンサート内容

日時 12月28日（火）10:00～11:00

会場 教室

参加者数 約90名

実施内容 ICEPカルテット自己紹介

ドヴォルザーク／糸杉 B.152より 第12曲

楽器、楽曲の説明

ハイドン／弦楽四重奏曲 Op.76 No.1 ト長調より 第1楽章

楽器体験

ベートーヴェン／弦楽四重奏曲第5番イ長調Op.18-5より 第1楽章

モーツァルト／ディベルティメント 二長調 K136より 第1楽章

Q & A

子どもたちによるパフォーマンス（伝統舞踊）



厳しい家庭環境にある子どもたちが多く通っている様子は、着衣などからも容易に推察できた。どのような境遇の子どもでもコンサートに参加している時には目を輝かせ、演奏者の様子をまっすぐに見つめ、楽しんでいた。

## 訪問コンサート16 国立音楽舞踏学校（ビエンチャン市）

### ◆学校情報

在校生数 300名  
在校生年齢 11～18歳  
その他 伝統楽器専攻130名、クラシック音楽専攻130名、舞踏・歌専攻40名が在学。

卒業生の内、優秀な学生3～4名が国立合奏団に入団し、それ以外は県の文化局の職員になることが多い。

クラシック音楽専攻には、ピアノ、ヴァイオリン、クラリネット、ギター、サクソフーン、トランペット、トロンボーンの7つの科がある。

ヴァイオリン科の学生は5名で全員が初級者レベルであった。ヴァイオリン科は2008年から試験的に導入されたが、サクソフーン教師が兼任しており、少人数しか受け入れられない状況でヴィオラ・チェロ科は無い。



### ◆コンサート内容

日時 12月28日（火）13:30～15:30

会場 講堂

参加者数 約160名

実施内容 【学生による演奏】

・ラオス伝統音楽

伝統音楽専攻学生11名（男子10名、女子1名）

・ヴァイオリン独奏

カイザーヴァイオリン教本より第15番（男子学生）

【カルテット演奏】

・モーツァルト／ディベルティメント 二長調 K136より 第1楽章

・ベートーヴェン／弦楽四重奏曲第5番イ長調Op.18-5より 第1楽章

・シューマン／弦楽四重奏曲第3番イ長調Op.41 No.3より 第1楽章

【ラオス伝統楽器 演奏体験】



ヴァイオリン専攻学生は、コンサート終了後、演奏技術についてICEPカルテットに質問に来るなどモチベーションは高いので、その意欲が活かされるよう早期に学習環境の整備されることを望む。

現在、ラオスにはプロフェッショナル・アマチュアを問わず、クラシック音楽を演奏するオーケストラは存在しない。学校側は、ヴァイオリン科を新設するなどクラシック音楽の専門教育に前向きなので、同校の今後の教育内容の改善と、時間がかかってもそれらが着実に進展することを期待し、注目していきたい。



## 訪問コンサート17 ビエンチャン・ユース・センター & クリニック (ビエンチャン市)

Youth Center and Clinic for Health and Development

### ◆施設情報

設立 2001年  
その他 国連開発計画（UNDP）ラオス事務所から紹介された施設。2007年より青少年のための無料相談ホットラインを2本（男女1本ずつの回線）開設。ホットラインの相談員は、15～24歳のラオス人ボランティア40名で、普段は学生や工場勤務者などである。



相談内容は、家庭内の家族間の問題からエイズや性病・妊娠など多岐に渡り、センターに併設するクリニックでは無料の診察も実施している。

この種の施設は、現在ラオス国内に1ヶ所のみ。

### ◆コンサート内容

日時 12月29日（火）9：00～10：00

会場 会議室

参加者数 約30名

実施内容 ICEPカルテット自己紹介

ドヴォルザーク／糸杉 B.152より 第12曲

楽器、楽曲、演奏形態の説明

ハイドン／弦楽四重奏曲 Op.76 No.1 ト長調より 第1楽章

楽器体験

ベートーヴェン／弦楽四重奏曲第5番イ長調Op.18-5より 第1楽章

モーツァルト／ディベルティメント 二長調 K136より 第1楽章

Q & A

子どもたちによるパフォーマンス（合唱）

ラオス伝統楽器ケーンの贈呈



日頃ボランティアとしてセンターで活動している20歳前後の若者が鑑賞した。初めてクラシック音楽を聴いたという参加者ばかりだったが、全員が積極的で、これを機会にもっとクラシック音楽を聴いてみたいと前向きな感想が聞かれた。「1曲を演奏会用に仕上げまでにとどれくらいの時間をかけるのか」、「1つの弦楽器が出来れば、他の弦楽器も簡単に弾くことができるのか」、「指を指板の上で物凄く速く動かせるのは、何かトリックがあるのか」などの質問を受けた。

---

<http://www.musicsharing.jp/>

特定非営利活動法人

## ミュージック・シェアリング

〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12 藤和半蔵門コープ708

TEL : 03-3261-1855 FAX : 03-3261-1856 Email: [info@musicsharing.jp](mailto:info@musicsharing.jp)

